

タイトル「**2018年度 経済学部シラバス**」、フォルダ「**2018年度 経済学部シラバス**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	現代日本経済論		
担当教員	荒井 信幸		
対象学年		クラス	E1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	標準履修年次 2・3年次		
科目名(英語表記)	Modern Japanese Economic Theory		
授業の概要・ねらい	マクロ経済学や産業論のケーススタディとして、日本や海外の経済・産業を鳥瞰します。全体は3つパートからなっています。第1に、日本を中心として戦後から現在までの経済動向を概観します。第2にマクロ的な視点から、雇用、物価、金融、財政、為替、貿易の動向をまとめます。第3に自動車、素材、IT産業などの具体的な産業の発展と、最新の動向を学びます。		
授業計画	回	内容	
	1	イントロダクション(日本の経済規模、成長率、景気循環)	
	2	1945-70年の経済(戦後復興、高度成長、所得倍増)	
	3	1970-80年の経済(尼克ソク、インフレ、2度のオイルショック)	
	4	1980-90年の経済(世界同時不況、レーガノミクス、プラザ合意、円高不況と金融緩和)	
	5	1990-1997年の経済(バブルの膨張と崩壊、バブル後の不況、アジア経済危機と金融システム不安)	
	6	1998-2007年の経済(デフレ、ITバブルと崩壊、景気回復と3つの過剰の解消)	
	7	2008年ー2018年の経済(リーマンショック、大震災、アベノミクス)	
	8	理解度の確認(中間試験)	
	9	人口構造、雇用の変化	
	10	物価、金融、財政	
	11	為替、国際収支、貿易、直接投資	
	12	産業構造、技術革新、環境問題	
	13	自動車産業からみた現代経済	
	14	素材産業からみた現代経済	
	15	IT産業(電子・通信)からみた現代経済	
到達目標	経済の変遷や、実際のマクロ経済指標、産業動向を総合的に見ることで、現代の経済をより深く理解できるようになる。		
成績評価の方法	中間試験(50%)、期末試験(50%)		
教科書	浅子和美・篠原総一・飯塚信夫(2015)「入門・日本経済(第5版)」(有斐閣)		
参考書・参考文献			
履修上の注意・メッセージ	第1回目の授業で詳しいシラバスを配布し、授業の進め方について重要な説明をしますので、受講に関心のある方は、必ず出席して下さい。		
履修する上で必要な事項	ミクロ・マクロ経済学入門を受講済みであることが望ましい		
受講を推奨する関連科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、国際経済学Ⅰ・Ⅱ		
授業時間外学修についての指示	第1回目の授業で配布するシラバスに教科書の関連部分を指定します。教科書は必ず入手し、講義に先立って指定された部分を、必ず予習してください。		
その他連絡事項			
科目ナンバリング			